

美声に生きる

森野 水琴

聞いていて心地よくなる声がある。

それぞれの読み手によって異なる間合いが、さらに趣きを高める。

彼は区の図書館で月に一度、赤ちゃんに絵本を読み聞かせている。
赤ちゃんの真剣な眼差しに心ときめく。

先日、実家に行く機会があり、母が入所している施設で母と面会した。
母と眼が合うと嬉しそうに微笑んでくれた。

記憶は戻らないものの好反応に、かける声も弾む。

まるで母が赤ちゃんに戻ったかのようなのである。

別れ際に手を振ると、手を振って応じてくれた。

彼は区が主催する音訳者養成講座を修了し、音訳者になった。

音訳者の仕事は眼が見えない人のために音声資料を作成することである。
持ち込まれた本を対面朗読する場合もある。

月に一度の音訳者の定例会に出席して活動していくことになる。

講習を受けたからといって、まだまだ声を磨かなければならない。

彼は つぶやく

この声 聞く人の心に響け